

<http://www1.ipdl.jpo.go.jp/PA1/result/detail/main/wAAAa24068DA411046199P1.htm> 02/01/11

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-46199

(43) 公開日 平成11年(1999) 2月16日

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

H 0 4 L 12/28
12/40H 0 4 L 11/20
11/00

D

3 2 1

審査請求 有 請求項の数 7 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-213862

(22) 出願日 平成9年(1997) 7月25日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 三上 恭子

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社社内

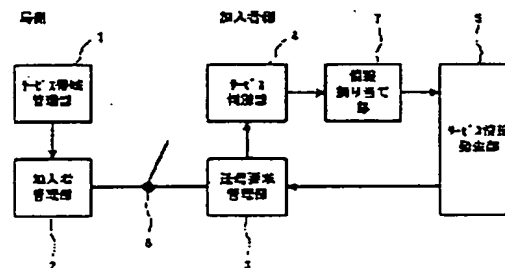
(74) 代理人 弁理士 鈴木 康夫

(54) 【発明の名称】 ボーリング方法及び方式

(57) 【要約】

【課題】 ATM-PDS方式のボーリング方式において、優先度の高い信号に対するサービス伝達の遅延を小さくする。

【解決手段】 局側の加入者管理部2は、サービス帯域管理部1からのサービス種別毎の必要帯域及び予備帯域の割当て情報を元に、送信を許可する端末と送信サービスの種別を指定して送信要求の問い合わせを行う。加入者側送信要求管理部3は、局側の送信要求が自分宛であればそれを抽出し、サービス判別部4で送信サービスの種別を判別し、サービス情報発生部5に該当するサービス種別の送信を指示する。サービス情報発生部5は指示された種別のサービス情報を局側に送信する。また、情報割当て部7はサービス種別毎の送信間隔を管理し、所定の間隔で当該サービス種別に対して送信許可がないときには、予備帯域に対して当該サービス種別の送信情報の割当てを行い、サービス情報発生部5から局側装置へボーリング応答として送信する。



(3)

特開平11-46199

3

S方式において、サービス種別毎に必要帯域を管理するサービス帯域管理部と、サービス帯域管理部からの情報をもとにサービス帯域に予備帯域を付加し、加入者毎の送信管理を行う加入者管理部とを有する局装置と、受信した信号から自分に対して割り当てられた送信要求を分離する送信要求管理部と、受信した送信要求の中から送信サービス種別を判別するサービス判別部と、サービス毎の送信間隔を管理し、所定の間隔で特定サービスに対する送信許可がないときに、予備帯域に対して情報を割り当てる情報割当て部とを有する加入者装置とによって構成されている。

【0008】このような構成とすることにより、ボーリング要求は、端末単位ではなく、端末・サービス種別毎に行われるため、端末設計において受信したサービス単位のボーリング要求に対応した送信管理を行うことができ、サービス伝送の遅延を小さく抑えることができる。また、予備帯域を割り当てて、送信間隔を監視することにより、ボーリング情報の伝送中にエラーが発生した場合の遅延を抑えることができる。

【0009】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の実施の形態を示すブロック図である。図1において、局側装置は、光分岐6を介して複数の加入者側装置と接続されている。局側装置のサービス帯域管理部1は、サービス種別毎に、サービス契約者数から算出される必要な上り信号の容量である必要帯域すなわち単位時間当たり収集できる情報量として割り当てられている帯域の割当てと予備帯域の割当てを行う。この予備帯域は、局側と加入者の間に設置された帯域のMAXから必要帯域を差し引いた帯域を割り当てることができる。

【0010】また、加入者管理部2は、サービス帯域管理部1からの帯域割当て情報をもとに、サービス情報を加入者毎に振り分け、加入者装置への送信管理を行う。

【0011】加入者側装置の送信要求管理部3は、局側装置から受信した信号から、自分に対して割り当てられた送信要求かどうかの判定を行い、自分宛の送信要求であればそれを分離する。サービス判別部4は、受信した自分宛の送信要求から送信サービスの種別を判別する。情報割当て部7は、サービス種別毎の送信間隔を管理し、所定の間隔で特定サービスに対する送信許可がないとき、予備帯域に対して情報の割当てを行う。サービス情報発生部5は、該当するサービスの情報をボーリング応答として局側装置へ応答する。

【0012】次に、本発明の動作について図1を参照して説明する。局側装置の加入者管理部2は、サービス帯域管理部1からのサービス種別毎の必要帯域及び予備帯域の割当て情報をもとに、光分岐6を介して接続されている加入者側装置の全ての端末に対して、送信を許可す

4

る端末と送信サービスの種別を指定して、送信要求の問い合わせを行う。

【0013】加入者側装置においては、各端末の送信要求管理部3は、局側装置からの送信要求が自分に対して割り当てられた送信要求かどうかの判定を行い、自分宛の送信要求であればそれを抽出してサービス判別部4へ送出する。サービス判別部4では、自分宛の送信要求の送信サービスの種別が何であるかを判別し、情報割当て部7を介してサービス情報発生部5に対して該当するサービス種別の送信を指示する。サービス情報発生部5は、サービス情報判別部4によって指示された種別のサービス情報を送信要求管理部3及び光分岐6を経由して局側装置に送信する。

【0014】また、情報割当て部7では、サービス種別毎の送信間隔を管理しており、局側装置から、所定の間隔で当該サービス種別に対して送信許可がないときには、予備帯域に対して、当該サービス種別の送信情報の割当てを行い、サービス情報発生部5から、局側装置へボーリング応答として送信する。

【0015】局側装置の加入者管理部2は、サービス種別に応じてボーリングの回数を調整し、例えば、優先度の高いサービス種別に対しては頻りにボーリングを行うことにより、優先度の高いサービス種別の送信遅延を最小限に抑えることができる。

【0016】

【発明の効果】本発明のボーリング方式は、ボーリング要求を端末単位ではなく、端末・サービス種別毎に行っているため、端末設計において、受信したサービス単位のボーリング要求に特化した送信管理を行うことができ、全体としてサービス伝送の遅延の影響を小さく抑えることができる。

【0017】また、本発明は、サービス帯域に予備帯域を割り当て、所定の間隔で特定サービスに対する送信許可がないときに、この予備帯域を用いて情報を割り当てて局側装置に伝送するようにしているため、ボーリング情報の伝送中にエラーが発生した場合においても、それによる遅延を抑えることができる。

【0018】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 サービス帯域管理部
- 2 加入者管理部
- 3 送信要求管理部
- 4 サービス判別部
- 5 サービス情報発生部
- 6 光分岐
- 7 情報割当て部

(4)

特開平11-46199

【図1】

